情報化支援の進め方Ⅱ

Informationtechnology processing support Ⅱ

中小企業診断コース関連科目

担当教員	鵜飼雄太（客員）	**単位数**	1単位
開講学期	夏学期	**開講曜日・時限**	授業スケジュール参照
位置づけ	情報化・DX化,技術・イノベーション 基礎段階		
区分	基幹科目		

科目紹介	
科目の重要性・必要性	クラウド・IoT・AI時代となり、情報化の重要性は増している中で、中小製造業においても企業経営に資する情報化のスキルを習得する重要性・必要性が増している。
科目の目的	中小製造業のIT活用状況の実態を理解し、IT活用の根底にある経営課題を明確にした上で、適切な情報化による課題解決の立案について指導、支援、アドバイスできる能力を修得する。
到達目標	製造業分野の企業の経営目標クリアするための経営課題と、その経営課題を克服するための情報化課題を的確に発見できるとともに、明確化された情報化課題を克服するため、経営戦略に根ざした情報化の基本的な改善提案をそれまでに修得した知識等を基に策定できることを目標とする。
受講してもらいたい院生	中小企業経営等の経営コンサルタントを目指す院生

授業計画

第1回	**予習・復習時間**	4時間
	予習・復習内容	予習：中小製造業における情報化の可能性と、中小企業診断士の役割について考えてくる。 復習：自身が中小製造業の情報化（IT活用）にどう関わっていくのかを考える。
	授業内容	情報化支援の進め方（製造業）（１）（講義とディスカッション） ・中小製造業における情報化の実態と中小企業診断士に求められる役割① 　生産システムと情報伝達レベル、マニファクチャリング・マネジメントサイクルや生産情報システムの設計要点などを理解した上で、中小製造業の情報化（IT活用）における課題と中小企業診断士の役割について学ぶ。演習方法としては、ケースを活用し、チームに分かれて実施。
	授業課題	無
第2回	**予習・復習時間**	4時間
	予習・復習内容	予習：中小製造業における情報化の可能性と、中小企業診断士の役割について考えてくる。 復習：自身の身近な企業の情報化（IT活用）について考察する。
	授業内容	情報化支援の進め方（製造業）（２）（講義とディスカッション） ・中小製造業における情報化の実態と中小企業診断士に求められる役割② 　生産システムと情報伝達レベル、マニファクチャリング・マネジメントサイクルや生産情報システムの設計要点などを理解した上で、中小製造業（特に小規模企業）の情報化（IT活用）における実態を公的データや実体験をもとに学ぶ。
	授業課題	無

第3回	**予習・復習時間**	4時間
	予習・復習内容	予習：中小製造業を取り巻く環境変化と情報化について考えてくる。 復習：製造業分野の企業の経営環境の変化（IT化の進展、SCMの変化、技術調達の変化（オープンイノベーション）、新素材の発現、材料調達のグローバル化、材料価格の変化など）の動向について考察することにより理解を深める。
	授業内容	情報化支援の進め方（製造業）（３）（講義とディスカッション） ・製造業で押さえておくべきＩＴ技術と最新動向① 製造業分野の企業の経営環境の変化を踏まえた上で、支援を行う際に押さえておくべきIT技術と最新動向（AI、RPA、5G(通信技術全般）、ビッグデータ、クラウド技術など）や情報セキュリティ対策を学ぶ。演習方法としては、中小製造業のケースを活用して講義する。
	授業課題	無
第4回	**予習・復習時間**	4時間
	予習・復習内容	予習：中小製造業にとっての情報化のポイントについて考えてくる。 復習：自身の身近な企業を例にして、情報化を進める場合の懸念点やどう助言すべきかを考察することにより、理解を深めるとともに手法を定着させる。
	授業内容	情報化支援の進め方（製造業）（４）（講義とワークショップ） ・IT相談ケーススタディ①（情報課題の明確化） 実際のケーススタディを用いて、中小製造業からIT相談を受けた場合に、中小製造業の戦略を理解した上で経営管理・生産管理システムやWebマーケティングなど、どの領域を強化すべきかを想定出来るよう、情報化課題の明確化についてグループワーク形式で学ぶ。
	授業課題	無

第5回	**予習・復習時間**	4時間
	予習・復習内容	予習：中小製造業にとっての情報化のポイントについて考えてくる。 復習：自身の身近な企業を例にして、情報化を進める場合の懸念点やどう助言すべきかを考察することにより、理解を深めるとともに手法を定着させる。
	授業内容	情報化支援の進め方（製造業）（５）（講義とワークショップ） ・IT相談ケーススタディ②（情報課題の明確化） 　第４回の続き。 実際のケーススタディを用いて、中小製造業からIT相談を受けた場合に、中小製造業の戦略を理解した上で経営管理・生産管理システムやWebマーケティングなど、どの領域を強化すべきかを想定出来るよう、情報化課題の明確化についてグループワーク形式で学ぶ。
	授業課題	無
第6回	**予習・復習時間**	4時間
	予習・復習内容	予習：中小製造業において、IT相談の本質にはどんな経営課題が潜んでいるのかを考えてくる。 復習：自身の身近な企業で想定されるIT課題の相談を受けたと仮定し、その相談の裏に本質的な経営課題と解決策を考察することにより、理解を深めるとともに手法を定着させる。
	授業内容	情報化支援の進め方（製造業）（６）（講義とワークショップ） ・IT相談ケーススタディ③（情報課題の明確化） 　第５回の続き。 実際のケーススタディを用いて、中小製造業からIT相談を受けた場合に、中小製造業の戦略を理解した上で経営管理・生産管理システムやWebマーケティングなど、どの領域を強化すべきかを想定出来るよう、情報化課題の明確化についてグループワーク形式で学ぶ。
	授業課題	有
	課題フィードバック方法	全体へのフィードバック

第7回	**予習・復習時間**	4時間
	予習・復習内容	予習：情報化企画書について調べてくる。 復習：自身の身近な企業に置き換えて、本講義で学んだ内容を考察することにより理解を深めるとともに手法を定着させる。
	授業内容	情報化支援の進め方（製造業）（７）（講義とワークショップ） ・情報化企画書の作成① ケーススタディを元に、企業情報や経営課題からどのような観点で情報化が可能か、実現に向けてどういったことに注意すべきかを情報化企画書としてグループワークで作成する。
	授業課題	無
第8回	**予習・復習時間**	4時間
	予習・復習内容	予習：情報化企画書について調べてくる。 復習：自身の身近な企業に置き換えて、本講義で学んだ内容を考察することにより理解を深めるとともに手法を定着させる。
	授業内容	情報化支援の進め方（製造業）（８）（講義とワークショップ） ・情報化企画書の作成② 　第７回の続き。 ケーススタディを元に、企業情報や経営課題からどのような観点で情報化が可能か、実現に向けてどういったことに注意すべきかを情報化企画書としてグループワークで作成する。
	授業課題	無

第9回	**予習・復習時間**	4時間
	予習・復習内容	予習：中小企業とITベンダーとの関係性について考察してくる。 復習：自身の身近な企業に置き換えて、ITベンダーへシステム開発を発注する場合に自身がどう支援すべきかを考察することにより理解を深めるとともに手法を定着させる。
	授業内容	情報化支援の進め方（製造業）（９）（講義とワークショップ）担当　鵜飼雄太 ・RFPについて 情報システム導入時に中小企業診断士として抑えるべき役割① RFPとは何か、RFPはどのような手順で作成するのかについて学ぶ。
	授業課題	有
	課題フィードバック方法	全体へのフィードバック
第10回	**予習・復習時間**	4時間
	予習・復習内容	予習：中小企業とITベンダーとの関係性について考察してくる。 復習：自身の身近な企業に置き換えて、ITベンダーへシステム開発を発注する場合に自身がどう支援すべきかを考察することにより理解を深めるとともに手法を定着させる。
	授業内容	情報化支援の進め方（製造業）（１０）（講義とワークショップ） ・RFPの作成 　第９回の続き。 情報システム導入時に中小企業診断士として抑えるべき役割② グループワーク形式でケーススタディを元に実際にRFPを作成し、クラス全体で議論する。
	授業課題	無

第11回	予習・復習時間	4時間
	予習・復習内容	予習：中小製造業において、IT相談の本質にはどんな経営課題が潜んでいるのかを考えてくる。 復習：自身の身近な企業で想定されるIT課題の相談を受けたと仮定し、その相談の裏に本質的な経営課題と解決策を考察することにより、理解を深めるとともに手法を定着させる。
	授業内容	情報化支援の進め方（製造業）（１１）（講義とワークショップ） ・IT相談ケーススタディ④（情報課題の明確化及び解決に向けた支援） これまで学んだ内容を踏まえた総合演習。実際のケーススタディを用いて、中小製造業からIT相談を受けた場合に、どのような準備を行い、助言や提案を行うかをグループワーク形式で学ぶ。
	授業課題	有
	課題フィードバック方法	全体へのフィードバック
第12回	予習・復習時間	4時間
	予習・復習内容	予習：中小製造業において、IT相談の本質にはどんな経営課題が潜んでいるのかを考えてくる。 復習：自身の身近な企業で想定されるIT課題の相談を受けたと仮定し、その相談の裏に本質的な経営課題と解決策を考察することにより、理解を深めるとともに手法を定着させる。
	授業内容	情報化支援の進め方（製造業）（１２）（講義とワークショップ） ・IT相談ケーススタディ⑤（情報課題の明確化及び解決に向けた支援） 　第１１回の続き。 これまで学んだ内容を踏まえた総合演習。実際のケーススタディを用いて、中小製造業からIT相談を受けた場合に、どのような準備を行い、助言や提案を行うかをグループワーク形式で学ぶ。
	授業課題	無

授業情報

授業方法	講義、個人演習およびクラスワークで構成する。
テキスト	講義は担当教員が作成したオリジナルテキストを使用する。（なお、資料によっては必要に応じOffice365に事前・事後アップする。）
参考図書	柴崎 辰彦、影島 広泰、阿部 幸太『製造業・プラントにおける迫りくるDX(デジタルトランスフォーメーション)時代に向けたデジタル化導入・利活用提案』情報機構 ISBN:9784865022117

評価方法		
評価の視点	**評価 ウェイト**	**備考**
講義への参画度 講義の中で実施する討議への積極的な参画度を評価する。	50%	
演習レポートの内容 視察研究及び課題演習の内容、レポートへの取り組み姿勢。発表姿勢、説得力等を評価する。	50%	
合計	100%	

受講生へ （授業科目のアピールポイント、必要な基礎となる科目の履修や知識・スキル）
情報化の進展が流通業に与えている多大な影響を認識し、中小流通業、製造業にとっての情報化の意味について認識するようにしてほしい。

その他

シラバスの講義内容は、一部変更する場合がある。
変更の場合は、各教員の講義初日に改めて説明を行う。